

# がまごおり 議会 だより

## ● 3月市議会定例会 ●

- 一般質問…ここが論点…………… 2～6
- 議決された主な議案…………… 7～9  
平成24年度一般会計予算 248億7,400万円
- 議会日誌、5月臨時会・6月定例会予定………… 10

NO. **73**  
2012.5



タカアシガニにタッチ！（竹島水族館）

# 一般質問…ここが論点

## 3月定例会

3月市議会定例会中、2日、5日、6日の3日間で、4人の議員が会派を代表して質問し、10人の議員が個人質問を行いました。その中から主なものを要約して掲載します。

詳しい内容をお知りになりたい方は、3月定例会会議録を市立図書館などでご覧いただくか、市議会ホームページの会議録検索システムをご利用ください。発行・掲載はいずれも6月上旬の予定です。

また、インターネット録画中継も実施していますのでご覧ください。



他会計に繰出しをしているモーターボート競走事業特別会計

蒲郡市政クラブ  
代表 鎌田篤司

堅実な行財政運営  
について

**問** 財政健全化改革チャレンジ計画の目的は。

**答** 中期的な財政収支の推計を行い、持続可能な財政構造の確立。また、単年度収支不足の解消、負担の先送りをせず、臨時財政対策債を除き市全体の市債残高10%の削減を目指す。

**問** 10年後、20年後を見据えて、競艇収益をあてにしない財政計画は。

**答** 競艇からの繰入金については、事業が長期的には、低落的な傾向にある中で、この財源が続くという前提での運営は危険を伴う。企業誘致を進め、法人市民税の増加を図る等の施策を展開し、代わりの財源確保についても努力したい。

**問** 競艇ナイターレースの開始時間を繰り下げ等の売り上げ向上策は。

**答** 現在の午後9時消灯から逆算して、少しでも最終レースの時間が繰り下げできるように検討したい。

ここら豊かな教育の充実について

**問** 小中学校適正規模・適正配置の考えは。

**答** 将来、学校の校舎を建て替える時期に、適正な規模や配置を教育委員と市とで協議していきたい。

働く場の確保・産業の振興について

ほ場整備がすすむ大塚千尾地区



**問** 大塚千尾地区のほ場整備の進捗状況は。

**答** 総事業費3億1千万円、事業期間5年（平成23〜27年度）を予定している。

**問** 今後の蒲郡市発展の成否を占う蒲郡港のマイナス11m岸壁整備の現状と今後については。

**答** 現在、県施工により、240mの岸壁工事を実施しており、ハイブリッドケーソンを5基設置するなどして、26年度末の一部供用を目指している。

**問** 本町公園の活用を防災の観点から一考を。

**答** 災害時にも活用できる防災あずまや1基、かまどベンチ2基、収納ベンチ1基を設置。このような設備は、街区公園では初の地域密着型の公園である。

病院の安定経営・住みやすい町づくりについて

**問** 高齢者、若者の足確保対策として、24年度に公共交通基礎調査が予定されているが、実施の概要と今後の展開は。

**答** 地域別人口や高齢者数、主要施設の分布状況などを調査し、今後の方向性を決めていきたい。

**問** 生活保護者への就労支援等の取り組みは。

**答** 市内の受給者は、23年8月時点で過去最高の462世帯602人。生活費等を給付するだけでは解決にならないので、就労支援の強化を図るとともに、自立助長の支援を行いたい。

**問** 津波からの一時的避難ビルの指定は。

**答** 現在、構造的、位置的要件から候補を選定中。指定後は、非常時に活用で

きるよう、広く周知したい。

無所属の会

代表 牧野泰広

災害時における

情報戦略は

**問** 災害時における情報伝達の重要性を再認識している。災害・観光情報の発信、行政サービスなど情報分野における課題は。

**答** 発達してきている通信技術を十分に活用できていないことである。

**問** ワイマックスなどの次世代高速通信を活用し



次世代高速通信網として期待されるワイマックス端末

たまちづくりの推進が必要ではないか。

**答** 先進的な自治体の取り組みを参考にしながら、まずは活用できるかどうか調査研究を行うことが必要ではないかと思っている。

**問** 情報インフラは、防災のほか福祉等の分野に活用できる。インフラ整備など今後の情報戦略は。

**答** ICT技術を活用した次世代のたまちづくりは、今後重要になってくる。多額の費用がかかるインフラ整備も含めてどうあるべきかを調査研究していきたい。

公明党蒲郡市議団

代表 松本昌成

財政健全化改革チャレンジ計画について

**問** 今後の取り組みについて伺う。

**答** 市税の現年課税分の収納対策として臨時職員による初期未納者への電話催告の実施を考えている。情報システム最適化事業の中で税のシステム更新に合



わせコンビニ収納の対応を準備していきたい。

公共施設の建て替え、改修は猶予のできない時期を迎え、全庁的な検討は24年度に入れば、すぐにとりかかるべきと考える。

東日本大震災後の防災・減災対策について

**問** 今後、実施する対策はどのようなか伺う。

**答** 津波対策として電柱や公共施設の海拔表示の設置拡大及び津波避難ビルの指定を行う。情報発信は、防災ラジオの難聴対策で屋

外アンテナ設置の助成を行う。避難所対策は自然還元型トイレを24年度中に中学校に設置を完了する。被災者支援システムも被災後すぐに活用できるように連携にかかるシステムを東三河3市1町共同で開発する。

人口増につながるたまちづくりについて

**問** ほほえみプラン21後期計画の目標は。

**答** 24年度は計画目標の低年齢児保育受入数391人は達成できる予定。西



4月1日に開所した南部保育園

部保育園で1・2歳児、南部保育園で0から2歳児の受け入れを新規で行う。ファミリーサポートセンター事業は25年度実施を目指し、準備を進めていきたい。保育園整備計画の策定については早期にまとめていきたい。

**問** 発達障がい児の現状と対策はどのようなか。

**答** 現在、発達障がい児やその疑いのある児童が増えてきている。2カ月に1回のペースで発達支援関係者会議を開き、療育が必要な児童をいかにして関係機関にスムーズにつなげていくか研究している。今後は関係機関と連携強化し、一貫した支援に努めていく。

高齢者用肺炎球菌ワクチンについて

**問** 現在の状況と市の考えについて伺う。

**答** 22年度に蒲郡市で肺炎で亡くなられた方は78人である。24年度は予算計上していないが、県後期高齢者医療広域連合のワクチン予防接種補助事業も確認

し、検討していきたい。

### 形原西浦線の西中田 交差点について

**問** 事故件数と交差点改良の進捗状況は。

**答** 21年4月から24年1月までは人身事故20件、物損事故30件である。交差点改良は公安委員会と協議し、用地買収を行い、信号機の早期設置に向け努力していきたい。

### 市民の会蒲郡 代表 新 実 祥 悟

### 堅実な行財政運営 について

**問** 事務事業評価の結果、どれくらいの実業を廃止したか。また、今後の廃止予定の実業はどうか。

**答** 結果を受け、20年度から3年間に於いて4事業を廃止した。今後は出張所窓口サービス事業廃止を、理解を得ながら進めたい。

**問** 23年に試行的に事業仕分けを行ったようだが、



今後は本格的にやるのか。

**答** 今回多くの課題が見えた。行政改革委員会の総括が出た上で、本格実施の可能性を探っていきたい。

### 蒲郡市における

### 少人数学級の実施状況は

**問** 少人数学級の24年度の実施予定を伺う。

**答** 23年度までに、国、県の措置も合わせて小学1年生から中学1年生まで35人以下学級が実現した。24年度では、さらに中学2年生まで拡充する。

### ヘルスケア・ コンソーシアムを

**問** 医療系産業の育成を図ることが、本市の活性化に向けて有効な手段である。産学官連携の推進の一環として、コンソーシアムへの取り組みはどうか。

**答** 機会、要請があれば必要に応じて参加し、産業の活性化に向け、職員の資質の向上にも努めたい。

### 国の政策の中での 蒲郡市の観光行政は

**問** 観光庁長官が23年9月に蒲郡に見え、12月には市長が東京で長官と面談した。国の政策にあわせて市の取り組みはどうか。

**答** 観光庁が全国で実施するモニターツアーにおいて、当地のノルディックウォーキングが採択された。今後も地域資源を活用し、この地域に求められる観光施策を展開したい。

### 竹内滋泰（市政クラブ）

### 蒲郡駅に建設される観光 交流センターについて

**問** 観光交流エリア、展示エリア等の活動は。

**答** 観光交流エリアは、コンコースが一番近いところになり、市民と観光客が滞在しやすいエリアに、展示エリアは、イベントの開催はもちろん、物産展示、市内産業の紹介、伝統文化の発信、市民団体の発表の場等、市関連の展示をしていきたい。事務室は、観光インフォメーション、プロモーションの拠点としたい。

### 権限と財源を移譲しての 地域内分権について

**問** 本市においても、高浜市のような地域内分権

が必要と思われるがどうか。

**答** 各自治体の特徴を生かし、独自の取り組みを進めている。高浜市でも、独自の政策を推し進めており、非常に参考になる。

### 尾崎広道（無所属の会）

### 観光地駐車場について

**問** にぎわいのある観光地のように、観光客用駐車場をほどよく遠くに用意し、お金を使っていたり、システムはいかがか伺う。

**答** いろいろな地域の先進事例を参考に研究していきたい。

### 競艇場従事員について

**問** 従事員のやる気を起こす施策について伺う。

**答** 希望の多い研修等様々な研修を行い、職務に専念できるよう心がけたい。

### 工事等の市内業者発注 について

ノルディックウォーキング



**問** 下請けを含む工事発注に市内業者を使つては。業者選定要領で市内業者育成の観点から優先する取り扱いを行っている。

**答** 業者選定要領で市内業者育成の観点から優先する取り扱いを行っている。

### 大場康議（市政クラブ）

### 市民病院のDPPC導入について

**問** 入院費の計算にDPPCを導入すると、きめ細かな医療が行き届かない心配があるが、どう考えるか。

**答** DPPCデータの活用により、他病院の診療行為等も分析でき、患者の治療にも活用できるのではないかと思つている。

### 企業誘致に対する具体的な働きかけは

**問** 今後の国道23号、第二東名の開通や山側地域の災害の少なさという地の利を含めて県企業庁へのアプローチを行っているのか。

**答** 工業用地の開発に当たり、どういった課題があるかを県企業庁に聞いてきた。今後は、課題に関連

する担当課で勉強会を開いて検討を行うなど、引き続き企業用地の造成に向け努力をしていきたい。

### 柴田安彦（無党派）

### 消防団員の確保対策と機能別消防団の創設

**問** 条例で入団の条件は市内に在住する20歳以上の者と決められている。年齢制限の引き下げや市内居住条件の緩和も含めて対象者を拡大し、消防団員の確保のための工夫をすべきではないか。

**答** 条例で入団の条件は市内に在住する20歳以上の者と決められている。年齢制限の引き下げや市内居住条件の緩和も含めて対象者を拡大し、消防団員の確保のための工夫をすべきではないか。



消防団による操法の様子

**答** 入団条件の変更には条例改正が必要であり、消防団幹部や関係者の意見を聞きながら検討していきたい。

**問** 17年に国は機能別消防団員制度の指針を示している。消防団活動の応援に理解を示している消防団OBを機能別消防団として組織して、特に人手不足で困っている分団の強化に利用してはどうか。

**答** 制度導入によるデメリットなどの課題を消防団幹部とよく相談しながら導入の是非についてじっくり検討していきたい。

### 広中昇平（市政クラブ）

### 産学官連携事業の今後の展開は

**問** 産業振興などのため産学官連携による積極的な取り組みが必要である。アワビの陸上養殖は一つの提案であるが、産学官連携事業の今後の展開は。

**答** 県立水産高校等と企業が連携して積極的アワビの陸上養殖を進めてい

きたいというのであれば、部会等を設置して研究をしていきたい。

### ソフィア看護専門学校の今後の方向性について

**問** 県内の社会福祉法人から学校経営を任せてもらえないかという相談があった。今後の方向性に対する市の考えは。

**答** 今後示される具体的な提案内容が大きな経営改善に結びつく可能性がある場合は、議会に相談しな



ソフィア看護専門学校

### 伴 捷文（市政クラブ）

### 新斎場の建設について

**問** 斎場までの道路は非常に狭く、改修工事が必要と思われるが、対応は。

**答** 大久古池から斎場までの約500m区間は道路幅員が狭く、拡幅整備を行っていく。今後は24年度前半に地元説明会を開き、後半には実施設計の委託を行う。本体工事を25・26年度に行い、27年度の道路供用開始を目指す。

### くじ港の廃船処理について

**問** くじ港の廃船処理が進まず、環境と景観に影響を及ぼしている。今後どのように解決していくのか伺う。

**答** 早期に全ての廃船が片付くよう庁内各部で協力するとともに、飛田県議にも力添えを願い、強く県三河港務所に要求していく。

青山義明(無所属の会)

市の基幹産業である農業の後継者対策について

**問** 市として後継者及び就農希望者を確保する方策は考えているか。

**答** 後継者確保には経営安定化が不可欠であり、樹園地の改植支援や補助金等の支援を行っている。新規就農者確保には新規就業者奨励金制度も継続する。国の助成制度が活用できるよう、地域農業マスタープランの作成も準備中である。



男女共同参画社会の推進について

**問** 審議会等でクオータ制のように数値や枠を決めて女性登用率を高める考えは。

**答** 今後、女性の登用率向上に努めていくが、それよりも適材適所や最大限に力量を発揮できる審議会等での登用を高めていくべきだと考えている。

稲吉郭哲(市政クラブ)

企業誘致のために用地確保を

**問** 国道23号蒲郡バイパスの供用開始に伴い、新しい企業進出の意向も聞いている。今が企業用地確保の非常に大事なときだと考える。本市における企業用地整備の予定はどうか。

**答** 県企業庁から、まず一番の課題は農振農用地域の除外だと言われた。この課題を先延ばしすることなく、関係機関、関係各課と調整をしながら進めたい。

竹島周辺の活性化について

**問** 竹島周辺に、道の駅の建設やそこに誘導するような事業の考えは。

**答** 道の駅は、国の設置基準があり難しいと思っているが、それに代わるような施設整備を、国や県の補助金メニューを探してみたい。検討・研究していきたい。

鈴木貴晶(無所属の会)

財源確保対策のために自動販売機の競争入札を

**問** 公共施設にある自動販売機を競争入札にする



公共施設に設置されている自動販売機

と、名古屋市では106施設で、年額約200万円の収益が1億3000万円になった。早急に推進、実行していただきたいがどうか。

**答** 収益を活動の財源とする福祉団体や指定管理者のものは難しいが、そうではない施設は、近々入札等の準備にかかりたい。

学校給食センターの民間委託について

**問** アレルギー児への対策が本市では、牛乳のみである。民間業者では除去食・代替食の対応も可能であると聞いている。民間委託について早急に議論する必要があると思うがどうか。

**答** 職員の処遇の問題もあるが、今後民間委託を視野に入れ慎重に進めたい。

日恵野佳代(無党派・日本共産党)

巡回バス等の地域の公共交通について

**問** 名鉄電車と巡回バス、乗り合いタクシー等を一体的に考え、地域の公共

バス時刻表とタクシーチケット



交通をつくり直す必要があるのではないか。

**答** 当然視野に入れて考える必要がある。また、例えば直接市民病院まで行く直行便のようなものも必要だと感じている。

市民プールの再開・建て直しは

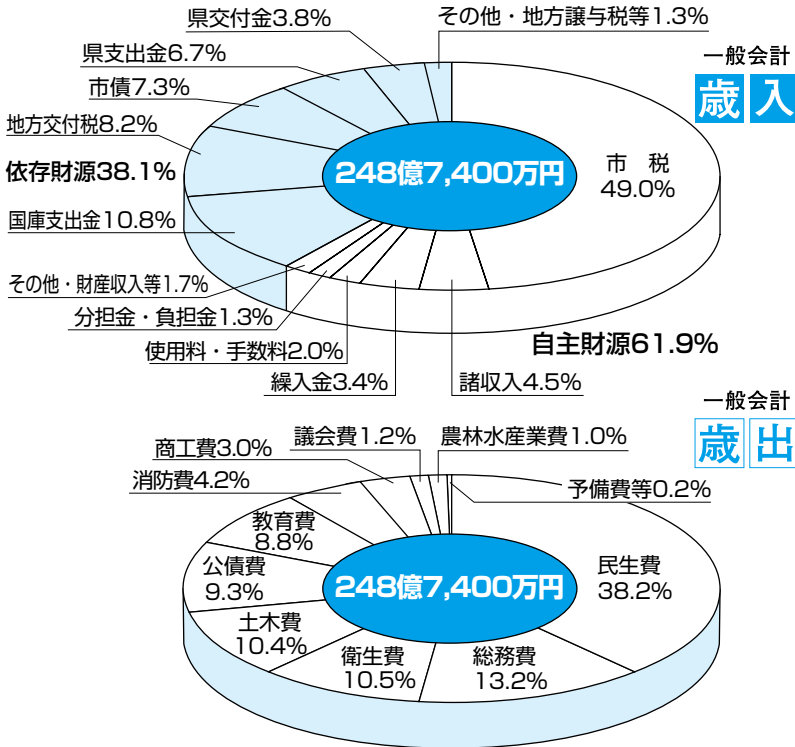
**問** 昨年12月議会に、建て直しについては調査をしてみないとわからないと言ったが、調査はしたのか。

**答** 現場へ行って、流水プールの水が全部抜けると聞いた。その時点で調査の必要はない、再開するなら建て直すしかない判断したが、小中学校のプールを先に直すべきとの判断に立ち、今回再開は断念した。

# 平成24年度一般会計予算 などを議決



3月市議会定例会は、2月23日から3月21日までの28日間の会期で開き、議案35件、請願1件を審議しました。  
平成24年度一般会計予算など、その主な内容をお知らせします。



■平成24年度予算 (単位: 万円)

会計別	予算額	前年度比
一般会計	248億7,400	4.4%減
特別会計	国民健康保険事業	82億6,200 3.3%増
	介護保険事業	52億6,690 6.3%増
	後期高齢者医療事業	15億7,060 8.9%増
	モーターボート競走事業	1,125億4,830 7.4%減
	土地区画整理事業	21億8,780 0.6%減
	公共用地対策事業	6,300 65.3%減
	下水道事業	24億3,670 0.7%減
	三谷町財産区	4,330 11.3%増
	西浦町財産区	1,350 16.4%増
	小計	1,323億9,210 6.0%減
企業会計	水道	収益的 17億2,480 0.7%減
	水道	資本的 6億7,260 12.6%減
	病院	収益的 78億1,210 2.8%減
	病院	資本的 7億3,150 9.6%増
小計	109億4,100 2.4%減	
合計	1,682億710 5.5%減	

## 予算審査 特別委員会から

24年度一般会計予算など12会計予算は、18人の委員からなる予算審査特別委員会（委員長伴捷文、副委員長新実祥悟）を設置し、審査をしました。

審査は、3月13日から16日の4日間にわたり、慎重に行いました。

### ○一般会計予算

### ■歳出

### ●総務費

**生命の海科学館改修**  
問 来館者から「おもしろかった」との声を聞く。3

月17日にリニューアルオープンするが、22・23年度の来館者数の実績と24年度の見込みは。  
答 22年度は3万1107人、23年度が4万3413人で40%増。特に学校関係の来館者数は、22年度が1451人、23年度が4157人で2.9倍と激増している。最高入館者数が開館初年度の4万8163人だったので、目標として5万人超えを目指していきたい。

### ●民生費

### 南部保育園の自園調理

問 南部保育園で自園調理を始めるとのことだが、アレルギー対応食と土曜日の給食はどうなるのか。

答 これまで同様除去食を基本として対応していくが、食材の段階から除去するなど、これまで以上にきめ細かな対応が可能になると思う。土曜日に自園調理は行わない。他の公立保育園と同じく軽食を発注し提供していく。

### ●衛生費

### 新エネルギー導入促進事業

### 3月定例会の日程

《2月》

23日 本会議〔会期の決定、諸般の報告、予算大綱説明、議案説明など〕  
予算審査特別委員会

《3月》

2日 本会議〔一般質問〕  
5日 本会議〔一般質問〕  
6日 本会議〔一般質問〕  
7日 総務委員会  
9日 経済委員会  
12日 文教委員会  
13日 予算審査特別委員会  
14日 予算審査特別委員会  
15日 予算審査特別委員会  
16日 予算審査特別委員会  
21日 本会議〔委員長報告、質疑、討論、採決など〕

**問** 補助金を交付すること

で太陽光発電の需要を喚起できると期待しているが、24年度はどれくらいの数を見込んでいますか。

**答** 24年度は200件を見込んでいます。23年度の件数は、21年1月からの国の補助金復活と東日本大震災の影響で需要が高まり、226件だったが、24年度からは国の補助金の交付率が下がるので、23年度ほど需要が伸びていかないと考えています。

### ●農林水産業費

#### 6次産業支援補助金

**問** 24年度から新規に6次産業に補助金を交付すると

のことだが、どのような形で交付をするのか。

**答** 1次から3次産業に関わる方の参加を得て蒲郡6次産業研究所を設立し、そちらで研究している事業に補助金を交付していく。具体的には「みかんで市民の健康を増進する事業」と「みかんでサービスを拡大し観光客を増加させる事業」に交付する予定である。

### ●商工費

#### 24年度オンパクin蒲郡

**問** 23年度のオンパクを検証し、24年度はどのようにオンパクを進めていくのか。  
**答** 23年度のオンパクは体験をするのに予約が必要なの

事業が多かったが、24年度は予約を必要としない、もしくは前日の予約でも体験できる事業を増やしていきたい。また、11月頃に開催予定の花フェスタと合わせて秋のオンパク開催も考えていきたい。

### ●消防費

#### 津波避難ビルの指定

**問** 津波避難ビルはどのような形で指定するのか。  
**答** 職員が市の沿岸を目視で確認し、候補となりそうな建物の構造的要件と付近に高台があるか等の地理的要件、避難ビルに逃げ込まなければならぬ状況になるかどうかや避難困難者数を調査して選定していきたい。避難ビルの指定の際にはビル所有者と協議し、協定書等を取り交わすことになる。対象となるビルを概ね20程度指定していきたいと考えている。

### ●教育費

#### 浜町仮設ソフトボール場

**問** なぜ24年度に改修工事が必要なのか。  
**答** 24年10月12日から15日

までの期間で50歳以上の女性を対象とした第11回全日本エルデストソフトボール大会が開催される。グラウンドが大分傷んでいるので、全国から集まる参加者に快適に試合をしてもらうため、内野部分の土の入れ替えを行う予定である。

### ●モーターボート競走事業

**特別会計**  
予算額は、1125億4830万円の前年度比7.4%の減となっています。この

会計から土地地区画整理事業特別会計に2億円、下水道事業特別会計に6億円、病院事業特別会計に12億円の繰出しを行います。

### ○水道事業会計

年度末給水栓数は、3万1750栓、1日平均給水量2万6904mを予定しており、収益的収支は6780万円の黒字予算となっています。

### ○病院事業会計

1日平均入院患者数を279人、外来は790人と見込んでいます。ボート会計から12億円を繰り入れた上で、収益的収支は7億5

910万円の赤字予算です。  
**条例の制定・改正**

### ●蒲郡市税条例の一部改正 (第5号議案)

東日本大震災復興基本法の理念に基づき、全国的かつ緊急に地方公共団体が行う防災施策の費用に充てるため、平成26年度から35年度まで個人市民税の均等割を500円引き上げます。

他には、平成25年1月1日以降に支払われる退職所得に係る市民税の10%税額控除が廃止されます。

また、平成25年4月1日から県たばこ税の一部が市たばこ税に税源移譲されることにより市たばこ税の税率が改正されます。

### ●市営住宅の入居資格等を追加 (第8号議案)

これまで公営住宅法等で定められていた市営住宅に入居することのできる対象者を市の条例で定めることとなります。これまでと同じような取り扱いができるように老人、身体障がい者



■ 3月定例会で審議された議案の一覧

○ 条例の制定・改正

- ① 市職員の公益的法人等への派遣等に関する条例の一部改正
- ② 市職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の一部改正
- ③ 部等設置条例の一部改正
- ④ 手数料条例の一部改正
- ⑤ 市税条例の一部改正
- ⑥ 火災予防条例の一部改正
- ⑦ 公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例の一部改正
- ⑧ 市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正
- ⑨ 住民基本台帳法の一部を改正する法律及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例の制定
- ⑩ 児童館の設置及び管理に関する条例の一部改正
- ⑪ 介護保険条例の一部改正
- ⑫ 公民館設置及び管理に関する条例の一部改正
- ⑬ 野外運動施設の設置及び管理に関する条例の一部改正

○ 予算

- ⑭ 平成24年度一般会計予算
- ⑮ 平成24年度国民健康保険事業特別会計予算
- ⑯ 平成24年度介護保険事業特別会計予算
- ⑰ 平成24年度後期高齢者医療事業特別会計予算
- ⑱ 平成24年度モーターボート競走事業特別会計予算
- ⑲ 平成24年度土地区画整理事業特別会計予算
- ⑳ 平成24年度公共用地対策事業特別会計予算
- ㉑ 平成24年度下水道事業特別会計予算
- ㉒ 平成24年度三谷町財産区特別会計予算
- ㉓ 平成24年度西浦町財産区特別会計予算
- ㉔ 平成24年度水道事業会計予算
- ㉕ 平成24年度病院事業会計予算

○ 補正予算

- ⑳ 平成23年度一般会計補正予算(第4号)
- ㉑ 平成23年度国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)
- ㉒ 平成23年度介護保険事業特別会計補正予算(第2号)
- ㉓ 平成23年度土地区画整理事業特別会計補正予算(第1号)
- ㉔ 平成23年度下水道事業特別会計補正予算(第1号)
- ㉕ 平成23年度病院事業会計補正予算(第1号)

第5期介護保険事業計画の策定に伴い、平成24年度から26年度までにおける保険料が見直されました。今回の改正により、保険料率の所得段階設定が、これまで9段階から10段階

● (第11号議案)

など入居者の資格や入居することができ収入の基準を条例に追加します。また、同居親族要件を必要とせず、単身で入居することができ住宅として丸山住宅B棟を指定します。

● その他の議案

● 固定資産評価審査委員会委員の選任

(第14号議案)

委員石川敏夫氏の任期が平成24年4月9日に満了することに伴い、山本博行氏を選任することに同意しました。

となり。また、この期間における介護保険料の基準額は、年額5万3664円です。これは平成23年度の4万9032円から9.4%の引き上げになります。

■ 請 願

① 蒲郡市民プールの建て直しを求める請願

提出者 清水 芳卓 氏ほか2899名  
 審査結果 不採択

(○内の数字は、請願番号)

■ 陳 情

○ TPP 交渉参加反対に関する意見書の提出を求める陳情書

提出者 蒲郡市農業協同組合  
 代表理事組合長 石川 賢治 氏  
 審査結果 聞きおく

○ 同意

- ⑭ 固定資産評価審査委員会委員の選任

○ その他

- ⑮ 市道の路線変更
- ⑯ 愛知県後期高齢者医療広域連合規約の変更
- ⑰ 物品の購入(モーターボート競走用モーター及びボート)

(○内の数字は議案番号。②、③、⑤、⑧、⑪、⑱～㉕は賛成多数で、それ以外は全会一致で可決されました。)

## 議会日誌

1月6日から4月9日

### 1月

24日 経済委員会

### 2月

14日 議会運営委員会理事会  
総務委員会

16日 3月定例会招集告示  
議案説明会

当初予算説明会

21日 議会運営委員会

23日～3月21日

3月定例会

### 3月

21日 議会だより編集委員会  
議会運営委員会理事会

### 4月

9日 議会だより編集委員会  
議会運営委員会理事会



## 5月臨時会 6月定例会の 開会日・日程は

5月市議会臨時会は、5月10日(木)に開会します。

臨時会では、議案の審査のほか任期満了となる各常任委員と議会運営委員の選任等が行われます。

詳しい日程は、5月8日(火)に開かれる予定の議会運営委員会で決まりますので、それ以後に議会事務局へお問い合わせください。なお、市役所1階ロビーでもお知らせします。

6月市議会定例会は、6月13日(水)に開かれる予定です。

## 議会だよりは 点字版とテープ版も 発行しています

議会だよりは、目の不自由な方向けに、点字版とテープ版を発行しています。点字版は、点訳グループ「あい」の皆さん、テープ版は、ボランティアグループ

「声」の皆さんのご協力で発行されています。

また、議会だよりは、三河塩津駅を除く市内JR3駅、名鉄蒲郡駅のほか市民病院や市役所出張所、市立図書館にも置いてあります。なお、インターネットでもご覧いただけます。

本会議の日程と一般質問の内容は、決まり次第、市議会のホームページに掲載しますので、そちらにアクセスしていただき、お知らせ欄をご覧ください。

本会議の傍聴を希望される方には、会議当日、市役所7階の議会事務局で先着順に傍聴証をお渡しします。



## こちら編集委員会

66-1169

「55人」「39人」「58人」「48人」。この四つの数字が何だか分かりますか。

実は、これは6月、9月、12月、3月の平成23年度の蒲郡市議会定例会の本会議における傍聴者の会期ごとの合計人数です。1日約12人の方々が蒲郡市議会の本会議場まで足を運んでくれました。

これまでですと、特に平成23年度のように改選期の6月議会などは、新人議員の初めての一般質問ということで多くの傍聴者が大挙して来ることはありましたが、平成23年度のピークは何と12月議会でした。このことも私ども蒲郡市議会の大きな目標である「開かれた議会」の表れの一つでしょうか。

今後も「市民のための市議会」を目標に頑張りますのでご支援をお願い致します。

## 議会のことば — 傍聴

市民など議員以外の者が本会議など会議の状況を直接見聞きすることをいいます。

本会議は公開が原則で、市民等の傍聴の自由が確保されていますが、議場の秩序を保持し、円滑な議事を運営するため、議長は傍聴規則に必要な事項を定めています。

本市議会では、本会議においては、直接議場での傍聴のほか、より開かれた議会を目指し、動画共有サイト「USTREAM」を利用したライブ放映を行っており、インターネット上で視聴することができます。また、ライブ放映のほかに録画での放映も行っています。